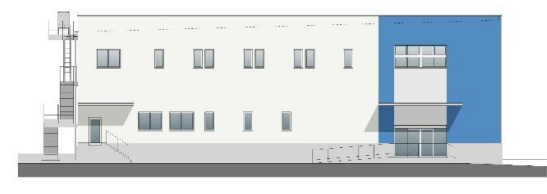


# CASBEE神戸ver.3

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社ミック水産加工場新築	階数	地上2F
建設地	神戸市西区見津が丘6丁目18-1	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火指定なし(法22条)	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年9月 予定	評価の実施日	2023年11月1日
敷地面積	12,096 m <sup>2</sup>	作成者	橋本 龍彦
建築面積	2,462 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	3,355 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.4** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%  
②建築物の取組み 47%  
③上記+②以外の 39%  
④上記+ 39%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境(敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 4  
LR2 資源・マテリアル: 3  
LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア= 2.6**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.7

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.1

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.8**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.3

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.6

3 CASBEE神戸の重要項目		
<b>バリアフリー計画</b> Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 3.0	<b>建築物の耐震性等</b> Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 3.0 Q-2/2.4 信頼性 2.8	<b>まちなみ・景観への配慮</b> Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 3.0
<b>配慮の概要</b> 0	<b>配慮の概要</b> 0	<b>配慮の概要</b> 0 沿道際に植栽帯を設けて、工業専用地域における街並みの演出に配慮している。
<b>その他の配慮事項</b> 0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)**  
**(仮称)株式会社ミツク水産加工場新築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄				評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.33</b>			<b>2.7</b>
<b>1 音環境</b>						<b>2.0</b>	0.15	-	-	<b>2.0</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>1.0</b>	0.40	<b>1.0</b>	-	
1.2 遮音						<b>2.6</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						<b>3.0</b>	0.60	<b>1.0</b>	-	
2 界壁遮音性能						<b>2.0</b>	0.40	<b>1.0</b>	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						<b>1.0</b>	-	<b>1.0</b>	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						<b>1.0</b>	-	<b>1.0</b>	-	
1.3 吸音						<b>3.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.7</b>	0.35	-	-	<b>2.7</b>
2.1 室温制御						<b>3.3</b>	0.50	-	-	
1 室温						<b>3.0</b>	0.38	<b>1.0</b>	-	
2 外皮性能						<b>3.0</b>	0.25	<b>1.0</b>	-	
3 ゾーン別制御性		用途毎、使用・作業目的により室温管理をしている。				<b>4.0</b>	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	-	
2.3 空調方式						<b>3.0</b>	0.30	<b>1.0</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.6</b>	0.25	-	-	<b>2.6</b>
3.1 昼光利用						<b>1.8</b>	0.30	-	-	
1 昼光率						<b>1.0</b>	0.60	<b>1.0</b>	-	
2 方位別開口						-	-	<b>1.0</b>	-	
3 昼光利用設備						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	
3.2 グレア対策						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 昼光制御						<b>3.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	-	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15	<b>1.0</b>	-	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25	<b>1.0</b>	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.1</b>	0.25	-	-	<b>3.1</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		基準法規制対象外の建築材料を全面に採用。				<b>4.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-	
4.2 換気						<b>2.3</b>	0.30	-	-	
1 換気量						<b>3.0</b>	0.33	<b>1.0</b>	-	
2 自然換気性能						<b>3.0</b>	0.33	<b>1.0</b>	-	
3 取り入れ外気への配慮						<b>1.0</b>	0.33	<b>1.0</b>	-	
4.3 運用管理						<b>2.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 喫煙の制御						<b>1.0</b>	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.1</b>	0.40	-	-	<b>3.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						<b>3.0</b>	0.33	<b>1.0</b>	-	
2 高度情報通信設備対応						<b>3.0</b>	0.33	<b>1.0</b>	-	
3 バリアフリー計画						<b>3.0</b>	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>3.3</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観						<b>3.0</b>	0.33	<b>1.0</b>	-	
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペースが執務スペースの2.29%である。				<b>4.0</b>	0.33	-	-	
3 内装計画						<b>3.0</b>	0.33	-	-	
1.3 維持管理						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床、壁、天井仕上材の耐用年数は20年以上である。				<b>5.0</b>	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水・汚水管はVP、消火はSGPを使用。				<b>5.0</b>	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>2.0</b>	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>2.8</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
3 電気設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						<b>2.0</b>	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.3</b>	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	2階建ての1階部分の階高は4.65m。	5.0	0.60	1.0	-	
2	空間の形状・自由さ	$227.41 / 2382.50 = 0.095 < 0.1$	5.0	0.40	1.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>2.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.37</b>	-	-	<b>2.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.8</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI <sub>m</sub> =0.69 ≤0.80	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.00 ≤0.60	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.3</b>	0.60	-	-	<b>3.3</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生砕石	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		鉄骨材に乾式にて仕上材を取付。置床・可動間仕切壁を採用。	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.6</b>	0.20	-	-	<b>3.6</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		接着材、シーリング材、塗床材	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2排出率が参照値に対して39%	<b>5.0</b>	0.33	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	